

令和2（2020）年度 事業報告

令和2年度は、「戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝える」という法人のミッションを実行すべく、新たな中期経営計画の初年度として、小中学校の来館校率をはじめとした数値目標を掲げて、各種の事業を実施する予定であったところ、新型コロナウイルス感染症拡大による政府の緊急事態宣言を受け、5月下旬まで臨時休館してスタートすることとなった。

館の再開後、令和2年度の経営目標数値を新型コロナの影響を考慮して修正し、徹底した感染拡大防止対策を講じつつ、大阪府における感染状況やその対応方針を踏まえ、入館者数や講堂座席数の制限を行いながら、各種事業の実施に努めた。

しかしながら、当館の6割を占める小中学校の来館については、5月に発出された文科省通知により修学旅行等の校外学習の中止の方針が示され、夏休みまでの来館校は0となった。

9月から11月の来館校数は、前年度の6割を超える水準にまで回復したが、12月上旬から再び感染第3波が拡大し、その後緊急事態宣言が出されたことを受け、キャンセルが相次ぐなどその影響は大きく、令和2年度の大阪府内の公立小中学校の来館校数は、163校（前年度は408校）にとどまった。アンケートによる学校満足度（平和学習到達度）は、90.8%であった。

入館者総数では、8月以降秋にかけて、一般の入館者が前年度の7割近くまで回復していたが、感染第3波の拡大とともに減少傾向となり、令和2年度の入館者総数は28,088人（前年度は65,980人）となった。

このような状況下において、戦後75年にあたる年にふさわしい平和祈念事業（12月は中止）や特別展、ウィークエンド・シネマなどの事業を実施するとともに、令和3年9月の開館30周年やアフターコロナを見据えて、館内スロープの大阪空襲体験画の追加、大阪空襲死没者名簿の電子化及び更新準備、スマートフォンを活用した展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」の導入準備、図書や寄贈資料の整理など、館内見学の快適性や資料館機能の強化のための取り組みを行った。また、前年度に引き続き、教員等の平和・人権研修や公共的団体のセミナー開催による講堂、会議室の有効活用や、夏休み期間を利用した大阪市立小学校の児童絵画・版画展の誘致を行った。

1. 展示事業

(1) 常設展示

2階展示室

Aゾーン：昭和20年、大阪は焼き尽くされた

Bゾーン：世界中が戦争をしていた時代

Cゾーン：戦時下の大阪の暮らし

スロープ

空襲体験者の「証言と体験画の回廊」

※展示する「大阪空襲体験画」の追加を行った。

1階展示室

Dゾーン：多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪

3階展示室

Eゾーン：たくましく生きる大阪

Fゾーン：私たちの未来をつくっていくために

映像コーナー

図書室

映画の定時上映（講堂） ※上映作品およびスケジュールの変更を行った。

(2) 特別展示

所蔵資料の活用や関係機関・団体の協力を得ながら実施した。

①「大空襲 75 年特別企画『大阪空襲体験画展』～未来に伝えたい人びとの記憶～」

＜趣 旨＞ 数多く所蔵する空襲体験画の中から、2017年に開催した体験画展で紹介しなかった作品を展示した。当初は、第一次大阪大空襲から 75 年の節目である 3 月から行う予定だったが、臨時休館のため、2 か月半遅れて開催した。

＜期 間＞ 5月22日（金）～7月19日（日）

＜内 容＞ 空襲体験画 約 135 点

＜参加者＞ 1,183名

②「被爆 75 年 ひろしまから世界へ 復興の歩みと平和へのメッセージ」

＜趣 旨＞ 広島県が取り組む平和に関する研究や戦後広島への復興の歩み、オバマ大統領とローマ教皇フランシスコの平和メッセージなどをパネル展示した。

（共催：広島県）

＜期 間＞ 8月21日（金）～9月27日（日）

＜内 容＞ 写真解説パネル展示など

＜参加者＞ 3,146名

③「引揚港・舞鶴と大阪 ～ひとりの男が伝えたメッセージ～」

＜趣 旨＞ 舞鶴引揚記念館の協力のもと、引揚港・舞鶴の歴史をはじめ、中国や朝鮮半島、シベリアなどからの海外引揚について、そして坂井仁一郎さんに関する資料を写真や解説パネルで紹介した。

また、滋賀県平和祈念館「戦争証言 2019」の映像「終戦 そして シベリア抑留」（証言者：内林義幸さん）を特別展示室内で使用した。

＜期 間＞ 10月10日（土）～12月27日（日）

＜内 容＞ 写真解説パネル展示など

＜参加者＞ 12,951名

④「生と死の間で ホロコーストとユダヤ人救済の物語」

＜趣 旨＞ ヨーロッパ各地を巡回した特別展の日本初開催。ホロコーストの「生存者」とユダヤ人に手を差し伸べた「救済者」の証言をもとに、彼らが直面した歴史的背景も踏まえながら、ヨーロッパ 12 か国で実際にあった物語を紹介

介した。(共催：European Network Remembrance and Solidarity
(記憶と連帯の欧州ネットワーク))

<期 間> 1月19日(火)～3月30日(火)

<内 容> 写真解説入りの大型ボード展示など

<参加者> 5,413名

(3) その他の展示

いのちへのメッセージ、学校から寄贈された千羽鶴

(4) ワークショップスペース(3階)の有効活用

学校と連携した平和学習に関する資料の展示など有効活用を図った。

2. 企画事業

アンケート結果も踏まえつつ、当館の発信力を強化し、魅力ある事業の展開に努めた。

(1) 平和祈念事業

終戦、開戦、大阪大空襲など節目の時期に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会として、集客力のある多様なイベントを開催した。

① 終戦の日平和祈念事業

<実施日> 8月2日(日) 午後2時～午後3時30分

アニメ「火垂るの墓」特別上映会

・参加者：67名

<実施日> 8月15日(木) 午後2時～午後3時

「戦争犠牲者追悼式と平和コンサート」

・内 容：黙とうと相愛大学音楽学部による演奏(協力：学校法人相愛学園)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年より規模を縮小して実施

・参加者：70名

② 開館の日平和祈念事業

<実施日> 9月13日(日) 午後2時～午後3時40分

特別上映会「二十四時間の情事 ～ヒロシマ・モナムール～」

・内 容：特別展「被爆75年 ひろしまから世界へ 復興の歩みと平和へのメッセージ」
の開催にあわせて上映

・参加者：89名

③ 開戦の日平和祈念事業

<実施日> 12月6日(日) 午後1時30分～午後3時45分

特別展「引揚港・舞鶴と大阪～ひとりの男が伝えたメッセージ～」関連イベント

「引き揚げを知っていますか?～ユネスコ世界記憶遺産に登録された舞鶴引揚記念館～」

・出演者：長嶺睦(舞鶴引揚記念館 学芸員)、桂春蝶

※新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、中止

④ 大阪大空襲平和祈念事業

<実施日> 3月14日(日) 午後2時～午後4時

「戦争と音楽 ～Trio Veil レクチャーコンサート～」

- ・出演者：Trio Veil
- ・参加者：136名

(2) 戦跡ウォーク（新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、全て中止）

(3) ウィークエンド・シネマ

・日 時：6～1月の毎週土曜日 午後2時～

※新型コロナウイルス流行に伴う休館により4～5月は中止

- ・内 容：所蔵視聴覚資料（DVD）を上映
- ・参加者：1,028名

(4) ウィークエンド・シネマ

～特別展「生と死の間で ホロコーストとユダヤ人救済の物語」関連作品特別上映～

- ・日 時：2～3月の毎週土曜日 午後2時～
- ・内 容：特別展開催にあわせ、映画「ヒトラーへの285枚の葉書」および「ニコラス・ウィントンと669人の子どもたち」を特別上映
- ・参加者：853名

(5) 春休み親子まつり

特別展「生と死の間で ホロコーストとユダヤ人救済の物語」関連イベントとして実施

- ・日 時：3月21日(日)～3月30日(火) 午後2時～
- ・内 容：青空みかんさんによる平和紙芝居、アニメ「六千人の命のピザ」の上映
- ・参加者：42名

(6) 平和紙芝居（新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、全て中止）

(7) 府政学習会（大阪府府政情報室との連携事業）（今年度は参加団体なし）

3. 館外利用事業

当館のアウトリーチ活動として、館外利用の促進に取り組んだ。

(1) 出前展示

パネル・実物資料の展示、ピースおおさか紹介ビデオの放映、パンフレットの配布等を実施し、将来の来館につながるよう、展示内容の工夫や実施場所の開拓等に努めた。

① 大阪市立総合生涯学習センター

- ・日 時：8月4日(火)～8月15日(土)
- ・場 所：大阪市立総合生涯学習センター5階
- ・内 容：パネル・実物資料展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：多数来場

② 大阪市立淀川図書館

- ・日 時：10月16日(金)～11月18日(水)
- ・場 所：大阪市立淀川図書館

- 内 容：実物資料展示、パンフレットの配布
- 参加者：5,813名
- ③ 大阪市立都島図書館
 - 日 時：12月2日(水)～12月24日(木)
 - 場 所：大阪市立都島図書館
 - 内 容：実物資料の展示
 - 参加者：8,234名
- ④ 大阪府立中央図書館
 - 日 時：12月4日(金)～12月16日(水)
 - 場 所：大阪府立中央図書館
 - 内 容：写真パネルなどの展示
 - 参加者：16,631名
- ⑤ 大阪市立中央図書館
 - 日 時：1月8日(金)～1月20日(水)
 - 場 所：大阪市立中央図書館
 - 内 容：パネル・実物資料などの展示
 - 参加者：35,000名
- ⑥ 大阪市立島之内図書館
 - 日 時：1月22日(金)～2月17日(水)
 - 場 所：大阪市立島之内図書館
 - 内 容：実物資料などの展示
 - 参加者：9,121名
- ⑦ 大阪市立阿倍野図書館
 - 日 時：2月19日(金)～4月14日(水)
 - 場 所：大阪市立阿倍野図書館
 - 内 容：実物資料などの展示
 - 参加者：36,424名

(2) 「語り部」等の派遣（紹介）

学校等からの「語り部」等の派遣依頼に対し、紹介を行った。

- 紹介件数：56件

(3) 平和学習資料の貸出し

学校、官公署、市民団体等の要請に応じ、平和学習用資料(写真パネル、空襲体験画、ビデオ、DVD等)の貸し出しを行った。

資料の充実に努めるとともに、特に遠方の学校等については、来館に代わる平和啓発活動の一環として広報に努めた。

- 貸出件数：237件（利用人数 85,314人）
（小学校 123件、中学校 48件、自治体 36件、その他 30件）
- 貸出資料種別（延べ 273件）
（ビデオ 11件、DVD 180件、紙芝居 4件、パネル 52件、体験画 13件、
実物資料 13件）

4. その他の事業

(1) 展示「カティンの森事件～22,000人のポーランド人将校の行方～」

(主催：神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)、協力：ピースおおさか)

・日 時：11月1日(日)～3月31日(水)

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、1月12日(水)～3月23日(水)は休館

・場 所：あーすぷらざ5階 国際平和展示室

・内 容：2019年にピースおおさかで実施した「カティンの森」の特別展を開催

・参加者：9,311名

(2) 講演会「カティンの森事件」

(主催：神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ))

・日 時：2月23日(火) 午後2時～午後3時

・講演者：駒井詩子(ピースおおさか 主任専門職員)

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止

(3) 「大阪市児童絵画・版画作品展」(大阪市小学校教育研究会図画工作部主催)

・日 時：8月8日(土)～18日(火)

・内 容：各学校から2枚ずつ選定された作品を特別展示室に展示(計565点)

・参加者：展示作品の児童父兄等約1,000名

(4) 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2020

(大阪市都市整備局企画部住宅政策課事業への協力)

・日 時：10月24日(土)～25日(日)(動画公開期間は11月15日(日)まで)

・内 容：新型コロナウイルスの影響によりバーチャル開催

・対象施設数：118施設

(5) 講堂・会議室の利用

府内の自治体(教育委員会含む)や公共的団体等が講堂や会議室にて平和・人権に関する研修会等を行う場合に、各団体の申請により施設の使用を許可し、あわせて使用料等を免除することとして施設の有効活用を図った。

・使用許可件数：22件(うち5件が新型コロナウイルスの影響で中止)

<主な利用例>

①「ユニセフセミナー大阪」(大阪ユニセフ協会主催)

・日 時：8月22日(土) 午後1時～4時30分

・内 容：「教育は未来を形づくるもの」をテーマにした講演会、ワークショップ

・参加者：51名

②「SDGs 国際シンポジウム」(大阪ユネスコ協会主催)

・日 時：2月28日(日) 午後0時30分～4時30分

・内 容：コロナ禍でのユネスコの活動、オンライン国際シンポジウム

ZOOMによるオンラインでモンゴル、ベトナム、ネパールと中継

③大阪府教員初任者研修

・日 時：11月11日(水)、17日(火)、19日(木)、12月1日(火)、3日(木)

・参加者：約1,100名

5. 「刻の庭」の管理運営

大阪空襲死没者の追悼及び恒久平和を祈念するため、2005（平成 17）年度に整備した「刻の庭」の管理運営を行った。

大阪空襲死没者名簿の管理、新規登載申出の受付等を行った。

＜空襲死没者名簿（原簿）の管理＞

- ・追加登載者数：19名
- ・名簿の訂正：7名
- ・登載者数計：9,136名（令和3年3月31日現在）
（内訳）公開 9,088名（刻の庭前で公開）、非公開 48名

6. 資料の収集・提供

実物資料、視聴覚資料、図書資料の適切な収集と管理に努め、展示及び貸出資料への利活用を図るとともに「収蔵品管理システム」により資料の整理、保存等を行った。

資料収集件数 単位：点

	寄贈資料	購入資料	製作資料
実物資料	94	0	0
視聴覚資料	22	42	1
文書資料	40	0	0
図書資料	66	28	0
計	222	70	1

2021（令和3）年3月末の資料収集件数（収蔵検索システム登録件数）

- ・物品：10,812点
（実物 4,531点、文書 1,934点、視聴覚 4,182点、その他 165点）
- ・図書：34,339点 合計：45,151点

7. 広報・啓発

(1) ホームページの運営

ホームページにより施設利用案内や事業広報等の情報提供を行うとともに、ホームページの更なる充実について検討を行った。また、SNSでも情報発信を行い、来館誘導の強化を図った。

- ・アクセス数：84,156回（うち、日本は73,104回）

(2) 印刷物の作成・配布

リーフレット「展示のしおり」の配布に加え、各種企画事業のチラシやポスターを適宜作成、配布するとともに、館報「ピースおおさか」を発行した。

(3) 学校等に対する多様な媒体を活用した広報

学校、関係組織等へのダイレクトメールの送付などに取り組んだ。

府市、中核市の教育委員会等（小中学校校長会、人権担当者会議を含む）に対して、校外

学習での当館への来館や貸出資料の利用を促した。

8. 来館者サービスの向上

魅力あるミュージアムグッズの制作について検討を行い、新たにハンカチやおりがみ、扇子、マグネットバーを制作した。

アンケート結果も踏まえて、Wi-Fi の設置など来館者のサービス向上に取り組んだ。

なお、今年度の入館者総合満足度は、94%であった。

9. 自主財源（平和寄金）の確保

あらゆる機会等を通じて、平和寄金の趣旨（企画事業・特別展示等の原資）と寄附に係る税の優遇措置を説明し協力を求めた。なお、今年度の平和寄金収入は 619,304 円であった。

「ピースおおさか友の会」会員の新規拡大に努めた。

<「ピースおおさか友の会」入会状況>

- ・個人会員：67名
- ・団体会員：6団体

10. 効率・効果的な事業の実施

企画事業の充実を図り、収蔵品など既存ストックの有効活用に努めつつ、効率・効果的な事業実施等を行った。

運営コストの抑制に努めるため、電気供給契約等の相見積もりによる見直し、配布チラシの種類や配布先の検証などを行うとともに、業務の効率化を図った。

府市と入館者増に向けた取組み状況・課題を整理するため、適宜、「集客等ワーキング」などを開催した。

11. 施設の保全・補修

ピースおおさかの長寿命化及び安全性・快適性の確保を図るため、平成 28 年度に作成した「施設修繕計画」（平成 29 年度から 10 年間）に基づき、補修工事を計画的に実施するとともに、引き続き必要な予算措置を府市に要請した。

<主な実施内容>2 階トイレ更新、館内照明設備の LED 化等